

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 久居農林高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>少人数教育を生かし、地域に根ざした専門高校を目指します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します</li> <li>・「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自他共に認め合い、自己の成長を実感しながら、将来の地域を担いかつ地域のリーダーとなる意欲を持った生徒
	ありたい 教職員像	各担当教科の専門性を高めるとともに、授業形態や授業内容等の工夫・改善を行い、生徒の成長に喜びを感じ、充実感を持って、丁寧かつ柔軟に業務に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt; 安心安全で楽しく過ごせる学校、自己の存在が実感できる学校、わかりやすい授業、進路希望の実現</p> <p>&lt;保護者&gt; 子どもを成長させてくれる信頼できる学校、進路希望の実現、職業観・勤労観および基本的な生活マナーの定着</p> <p>&lt;地域住民。&gt; 地域に開かれた学校、地域を担いかつリードする人材を育てる学校、基本的な生活マナーの定着</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;保護者&gt; 学力定着、進路希望実現、卒業後のケア、生徒が安心・安全に学べる環境</p> <p>&lt;地域住民・産業界&gt; 教育資源の活用、知識や技能・意欲を持った生徒の育成、基礎学力</p> <p>&lt;近隣保・幼・小・中・高校等&gt; 教育資源の活用、連携の強化</p>	<p>&lt;保護者&gt; 生活指導等への理解と協力、学校行事への参加、生徒の基本的な生活習慣の確立</p> <p>&lt;地域住民・産業界&gt; 教育方針等の理解、学校経営への協力と参画</p> <p>&lt;近隣保・幼・小・中・高校等&gt; 教育方針等の理解と協力、連携事業の強化</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわく農林塾は、非常に良い取組である。次年度も引き続き実施して頂きたい。生徒が「教える」という経験することは大きな「学び」につながるものである。</li> </ul> <p>○キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就職者への対応として、ハローワークを学校へ呼ぶことも検討してみてはどうか。</li> </ul> <p>○生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者が多い傾向があるが、在学期間中に生活習慣をしっかりと整えておかないと、社会へ出てからもかなり厳しいのではないかと。遅刻をすることが、他人に迷惑をかけることだとしっかりと認識させることが重要である。</li> </ul> <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集に苦勞していることがうかがえるが、情報発信の方法として中学生等へしっかりとアプローチできるインスタグラムなどを活用することが必要ではないか。ホームページやフェイスブックでは視聴する年齢層が高い。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわく農林塾は、生徒が同じ地域の保・幼・小・中学生とともに活動したり、自ら学んだ内容を教えたりすることを通じて、学びの理解を深めるとともに、保・幼・小・中学生が高校での学びを身近に感じることができる機会であるため、次年度も継続する。</li> <li>・生徒が自己の将来とのつながりを見通しながら職業意識を身につけられるよう、地域と連携して、企業での実習や専門家による指導、商品開発など、実践的な専門教育を推進する必要がある。</li> <li>・生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、「今何をすべきか」主体的に考え行動できるよう「自己指導能力」を身に付けさせる必要がある。</li> <li>・思春期の多感な生徒の複雑な心理や人間関係を理解するのは困難を極める。また、昨今はスマートフォンやインターネットの発達によって、教職員の目の行き届かない仮想空間でのトラブルも増加している。様々な悩みを抱える生徒に対応するため、教育相談体制を充実する必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年定員割れが続いている。入学定員を確保するために、現状をしっかりと分析・把握し、今後どのように対応していくのか、早急に対応策を検討する必要がある。また、今後の生徒減に向け、設置学科やコースをどのようにしていくかの検討も必要である。</li> <li>・教科指導や生徒指導など、教職員としての本来の職務を遂行するためには、教職員間の学び合いや支え合い、協働する力が重要である。日頃から教職員同士が気楽に話ができ、学び合うことのできる「同僚性」を高めていく必要がある。</li> <li>・一人一台端末の整備が進む中、教職員が積極的にICT機器を活用できるよう研修の機会を持つ必要がある。</li> <li>・本校の魅力がより中学生に伝わるよう、新たな媒体を用いた情報発信についても検討する必要がある。</li> <li>・総勤務時間の縮減については、過重労働も多く改善傾向には至っていない。学校運営上の課題を明らかにし、教職員の意見をもとに業務を改善する仕組みを構築し、働きやすい職場環境づくりに取り組む必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自ら学ぼうとする意欲を高めるため、自らが課題を設定し解決する学習活動を推進する。</li> <li>・生徒の確かな学力の向上を図るため、教員が積極的に授業改善を進め、「わかる授業」「興味を喚起する授業」を行う。</li> <li>・生徒の進路希望を実現するため、チーム久居農林で組織的に進路指導をすすめる。あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学だけでなく、その先の社会活動を見通した進路指導を推進する。</li> <li>・農業クラブ活動や家庭クラブ活動を通して探求活動を推進し、学習成果の発表や意見交換をする場に積極的に参加する。</li> <li>・大学や産業界等と連携して実践的な職業教育を推進し、三重の産業で活躍する人材を育成する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢と感動の実現」を合言葉に、教職員が自ら研修し、学習内容の充実や学力向上につながるよう授業改善に努める。</li> <li>・不祥事等を絶対起こさないよう学校信頼向上委員会での取組を推進し、全教職員でより一層地域に信頼され必要とされる学校づくりに取り組む。</li> <li>・教職員が業務に充実感を得られるよう、互いに認め協力し合い共に働けるチーム久居農林を作っていく。</li> <li>・学校の課題や情報を共有し、継続的に改善するための仕組みが機能するようにする。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<p><b>(1)生徒が主体となるような授業を実践</b></p> <p>【活動指標】 わくわく農林塾を農業・家庭学科各コース2回以上実施</p> <p>【成果指標】 生徒への事後アンケートにより自分の成長を感じたという回答: 88%以上</p> <p><b>(2)生徒による授業評価を実施</b></p> <p>【活動指標】 生徒へのアンケートにより授業満足度を把握</p> <p>【成果指標】 授業がわかりやすいという回答:88%以上</p>	(年度末および適宜記載)	
キャリア教育 の充実	<p><b>(1)進路ガイダンスを充実させる</b></p> <p>【活動指標】 各学年2回</p> <p>【成果指標】 生徒満足度95%以上の維持</p> <p><b>(2)生徒が主体的に進路を選択し、実現させる力を養う</b></p> <p>【活動指標】 生徒の主体性の涵養や自己理解の深化、自己肯定感の向上に向けて、インターンシップや担任面談、進路ガイダンス等を活用するとともに、進路実現に繋がる、履歴書、志望理由書や面接等の指導を充実させる。</p> <p>【成果指標】 就職内定者数(率)年内95%以上 第1希望の大学・短期大学への合格率70%以上</p>	(年度末および適宜記載)	
生徒指導の 充実	<p><b>(1)服装・頭髪等の身だしなみを整える</b></p> <p>【活動指標】 頭髪・服装指導 年間 8回実施 全校集会による声かけ</p> <p>【成果指標】 頭髪再指導が5%以内&lt;年度最終&gt;</p> <p><b>(2)いじめを許さない学校づくり</b></p> <p>【活動指標】 ラポール(いじめ)アンケート 年間 3回実施 面談週間 年間 3回実施 声かけ週間 第3週年間10回実施</p>	(年度末および適宜記載)	◎

	<p>【成果指標】 いじめ解消率100%</p> <p>(3)生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせる</p> <p>【活動指標】 遅刻カードの活用 生活習慣の改善を目的とした特別指導 生徒会主催の朝のあいさつ運動の実施</p> <p>【成果指標】 学校全体の遅刻の総数を1000以下(全校生徒数以下)</p>		
保健管理の充実	<p>(1)健康管理を充実させる</p> <p>【活動指標】 生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高め、健康管理に対する指導を行う。</p> <p>【成果指標】 すべての検診について受診100%にする。</p> <p>(2)相談活動を充実させる</p> <p>【活動指標】 保健室での相談活動を中心に行い、スクールカウンセラーや発達障がい支援員と連携する。</p> <p>【成果指標】 スクールカウンセラーによる相談を6時間×34回実施する。 発達障がい支援員を月6時間招聘し、生徒の学校生活への不安を取り除く手助けをする。</p> <p>(3)命とからだを大切にすることを育む教育活動を充実させる</p> <p>【活動指標】 生徒向け研修会等を実施する。</p> <p>【成果指標】 学年別で各年間1回実施。生徒アンケートで満足度80%以上にする。</p>	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>(1)学校運営上の課題を明らかにし、教職員の意見をもとに業務改善する仕組みを構築する。</p> <p>【活動指標】 業務改善提案を12月末に実施する。</p>	(年度末および適宜記載)	◎

	<p>【成果指標】 提案により改善できた業務 50%以上 (2)今後の生徒減に向け、設置学科やコースをどうするか検討する。</p> <p>【活動指標】 「農林の未来を考える会」を設置し、学科改編案を作成する。</p> <p>【成果指標】 5クラス規模の学科改編案を作成する。</p>		
資質向上の取組、信頼される学校づくり	<p>(1)教職員の各種研修会を実施し、指導力向上に努める(コンプライアンス研修、ICT研修、人権研修等)</p> <p>【活動指標】 各学期1回</p> <p>【成果指標】 参加者の満足度 85%以上</p>	(年度末および適宜記載)	
情報発信	<p>(1)情報発信を積極的に行う</p> <p>【活動指標】 学校HPの充実 学校のPR(新聞報道、テレビ等)</p> <p>【成果指標】 報道 20 件以上・ホームページ月 3 回以上の更新</p> <p>(2)令和6年度入学者選抜から実施する農業学科のくくり募集について、中学校に説明する。</p> <p>【活動指標】 中学校訪問</p> <p>【成果指標】 入学実績のある中学校への訪問 1回以上</p>	(年度末および適宜記載)	
働きやすい職場環境づくり	<p>(1)総勤務時間の縮減 原則、毎月第1第3月曜日を定時退校・ノ一部活デーとする。 各定期考査で1日(半日単位も可)以上の年休を取得する。 各定期考査中は定時退校とする。 閉校日を設定する。</p> <p>【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合:80%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合:95%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合:90%以上</p> <p>【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数:0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数:0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間:25時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数:13日以上</p>	(年度末および適宜記載)	
改善課題			

(年度末に記載)

## 5 学校関係者評価

明らかになった  
改善課題と次へ  
の取組方向

(年度末に記載)

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動につ  
いての改善策

(年度末に記載)

学校運営につ  
いての改善策

(年度末に記載)